

決 裁	市 長	副市長	教育長	部 長	課 長	プラネタリウム	郷土資料館

会議(打合せ) 報告書 (概要)

会議名	平成30年度第1回白井市郷土資料館運営協議会会議						
場 所	白井市文化センター2階中研修室				日 時	平成30年6月29日(金) 15:30~17:15	
報告者	郷土・プラネタリウム班		職・氏名		主査補 松丸 葉子		
出席者	(委 員) 古里委員(副会長)・倉田委員(会長)・飯島委員・横山委員・小林委員・平野委員・阿部委員・杉原委員(8名)						
	(事務局) 川上館長(センター長)・酒井主査補・松丸					傍聴者	1名

1. 開 会

2. あいさつ

○教育部 吉田部長より

- ・郷土資料館では委員の皆様のご意見を賜りながら、様々な事業に取り組ませていただいています。平成28年4月から進めていた庁舎の整備事業が完了し、文化センターに仮移転していた、議会、議会事務局が東庁舎に移転し、3階フロアで行っていた古文書の修補活動も2階の研修室に戻り、業務を再開している。
- ・本年度第1回の会議となります。郷土資料館の運営に対する十分にご審議を賜り実りある会議にしていきたい。

○倉田会長より

- ・博物館資料のデジタル化について、メトロポリタン美術館が著作権の切れた美術資料をデジタル化し、インターネット上で約40万点を公開。その利用に関しては、ダウンロードも、加工も自由。メトロポリタン美術館は全世界の人々を博物館利用者と認識して活動している。
- ・現在、博物館資料も利用もインターネットを通して提供することも多くなってきているので、少しずつでも資料のデジタル化を進めて、なるべく多くの資料を公開していくことを白井の郷土資料館だけでなく、日本の博物館全体で考えるべきことであるかと思う。公開して問題のない資料は公開し利用してもらうことが博物館、資料館の課題だと思っている。資料のデジタル化の公開は普及活動の一環であり、新たな利用者の増加につながるだろう。

○委員委嘱の委員自己紹介・・・委員(1名)より

○郷土資料館職員自己紹介・・・郷土資料館館長、担当職員(2名)より

3. 副会長の選任

- ・前副会長の退任により、「郷土資料館設置管理条例施行規則」に基づき、委員の互選により副会長を以下のとおり決定。
副会長：古里委員が満場一致で決定。

- 委員全員出席により「本会議が成立」及び審議会等会議公開の指針に基づき「公開会議」であることを報告。

4. 議題（議長：倉田会長）

同規則第10条により、会長が会議の議長となる
平成29年度事業報告について・・・資料に基づき事務局（郷土資料館）より説明
審議結果・・・大きな指摘事項等はなかった。

〔質疑応答〕

会 長：平成29年度郷土資料館事業報告の普及事業で「白井における江戸時代の結婚事情」について音読とありますが、ただ古文書を読むだけですか。

事務局：声を出して読みます、古文書講座の中級編と兼ねています。

会 長：それは活字を読むのではなくて、古文書を読みながら音読することですか。

事務局：声を出さずし字を読むことを試しにやってみました。

会 長：その音読した資料について今度は内容を検討していくのですね。

事務局：それが郷土史講座2回目と3回目になります。

会 長：わかりました。これはシリーズということでもないのですか。

事務局：内容だけ知りたいという方は音読の講座は出なくてもいいとしました。

会 長：特にセットで受講して欲しいということではないのですね。

事務局：はい。そうです。

会 長：その他、ご質問ございませんか。

委 員：寄贈資料の移管1件とありますが、印西市から平成29年1月26日に寄贈されたものの理由が印西市から出土したものであり、旧所有者の了解を得ていると。これは千葉ニュータウンが開発されるときに白井市と印西市の境目で若干調整あった、東京電機大学のあたりですか、その関係でしょうか。

事務局：これは印西市の阿夫利神社・石尊様の周辺で採集されたものです。
寄贈していただいた資料の中に入っていました。

委 員：旧所有者のいうのは白井の方ですか。

事務局：白井の方です。

どの辺で採集してきたのか記録していたので、場所がわかりました。

委 員：わかりました。

会 長：その他いかがでしょうか。

委 員：「白井の地名」について一部直していただければという話をしているが、その後どうなっているのでしょうか。

会 長：前回は〇〇委員さんから出されたご質問ですが、いかがでしょうか。

事務局：次に「白井の地名」を改訂するときに考慮したいと考えています。

委 員：改訂でなくて、「白井の地名」に正誤表を入れて配布していただけたら有り難いなと思っている。

事務局：誤字、脱字程度の訂正の正誤表はすぐに作ることができるが、内容がかかわることなので正誤表での対応は難しいところです。

委 員：「白井の地名」というのは郷土資料館が発行しているものなのですか。

事務局：平成15年頃に作っています。

会 長：〇〇委員さんは、相違点について、文化班や資料館に資料を出していますか。具体的なものが無いとわからないかと思えます。地名の問題は非常に難しくいろいろな問題があると思えます。

委 員：課税課で扱う地名と、地元の方から聴取した相違点をまとめた一覧表はできています。

事務局：「白井の地名」ですが、古文書から出てきた地名を中心として作成しています。
基の文献が違ので、違う見解が出てくるのは当然であり、それを正誤表にするのは難しいと思えます。

会 長：あとどのくらいでなくなりますか。

事務局：「白井の地名」についての残部数は、あと20部くらいです。

会 長：新しい「白井の地名」を刊行するときは、時間をかけて色々なことを、視野に入れて計画されたほうが良いでしょう。

事務局：次回、「白井の地名」を出版する際は、参考文献の見直しを含め、広く意見を聴きながら、時間をかけて、新しいものを発刊していきたいと思います。

委員：間違いだというのではなく、解釈や文献によつての違いでなく、個人的な意見が書いてあるようにとってしまうのですが。

副会長：地名は非常に難しい、次に編さんされるときは、広い視野で作っていただきたいと思います。

会長：ほかにご質問はありますか。

委員：資料の一番下ですが、来館者人数が28年度と比較して1万人減の13,729人です。よろしいでしょうか。

事務局：ギャラリーの利用がなかった分、来館者人数が減っています。

平成28年度は企画展を年2回開催していますが、平成29年度については年1回の開催でしたので、人数が減ったと考えられます。

委員：団体見学の受け入れの件ですが、白井市の場合小学校の教科のひとつとして必ず見学するということが入っているのか、小学校独自にされて来館しているのか。

事務局：白井第二小学校が時間の枠を取って郷土資料館に来館しています。その他の小学校については、プラネタリウム館の見学に時間がある場合、郷土資料館を利用するというのが現状です。

委員：ありがとうございます。

会長：事業報告の方はよろしいでしょうか。何かご質問はありますか、なければ議題2にはいらさせていただきます。

～ 以上で事業報告についての質疑終了 ～

平成30年度事業計画について・・・資料に基づき事務局(郷土資料館)より説明
審議結果・・・大きな指摘事項等はなかったが、見直し等が必要との意見があった。

[質疑応答]

会長：一般向けの年間行事案内は出されていますか

事務局：上半期、下半期で設置配布しています。

会長：広範囲に配布しているのですか。

事務局：展示室にて設置配布しています。

会長：展示室に来ないとわからないということですか。

事務局：はい。

会長：催し物の情報を知らなくて、講座を受けれられない人がいると思います。行事案内を市役所には置いていますか。

事務局：一般向けの年間行事案内は、展示室のみですが、講座等の情報発信はHPに講座の募集告知をしています。

ポスター等は本庁、出先、関係機関に掲示依頼しています。

企画展のような不特定多数の人が来ても大丈夫なものは、広く周知していきます。

まが玉づくりは人気があり、広報だけで定員になる。情報誌に掲載された時は申し込みが殺到したことがあります。

会長：受講したいという希望があれば、それに対応できるような体制をとるべきかと思えます。

委員：一人であれや、これやは、できないので、ボランティア団体等との連携、活用してはどうか。

センター長が変わったので改めて言いたい、小森城を白井市内の子供たちぜひ伝えたい。お城の整備は市から県に申請すれば国庫補助でお金がつくかもしれない。

事務局：小森城等の話は、生涯学習課文化班になります。文化財審議会でも色々検討しています。

副会長：文化財審議会でも話題になりましたが、小森城は地権者が多く絡むので、整備するには大掛かりなるだろう。

会長：遺跡がらみの講座等は文化班と共催も考えられますが、外部の力を借りて実施する

ことも考えてみてはどうか。

事務局：二人体制のときは、ふるさとガイドの会に協力をいただいて文化財巡りを開催していました。

現在は、休止していますが、今後外部との連携も考えていきたいと思えます。

会 長：事業計画ですが以前と同じ事業をするのは無理があるのではないですか。外部との協力体制も視野に入れて思い切った見直しを考えてみてはいかがでしょうか。

委 員：事業計画ですが元々どういう目標があったりするの。例えば、来館者数を増やしたいとか、色々あると思うのですが、どういう目標があって立てられたのか。

学芸員が減った中で今後どのように展開していくのか、それに合わせての事業計画があるのか。

保存するような体制というのは考えられると思うが、資料のデジタル化、インターネット通じて郷土資料館から何か発信できるのかというところを考えてみてはどうか。

資料の調査・収集・整理のなかで、どう組み込んでいくのか、通年とあるが実際どういうことを行うのか教えていただきたい。

事務局：調査・収集・整理を通年としているが、実際手を付けられておらず、その都度資料の持ち込みがあったら、急ぎのものから対応し、企画展・講座に使用できる資料を中心に収集して整理しているのが現状です。

みなさんのお話から、事業計画の見直しをする時期に来ていると思えます。来年度については、メリハリのある事業計画を考えていきたいと思えます。

会 長：色々なご意見が出ましたが、今こそ、事業計画を見直す時期だといえますので、見直しを十分に行い、来年度計画を立てていただきたい。

副会長：私は我孫子市にちょっと関係していますが、白樺文学館、井上家住宅などいくつかの寄贈を受けて公開をしています。そこに非常勤職員の学芸員対応をしています。

そういうことも役所全体で考えてみてはいかがかなと思えます。

会 長：資料の調査・収集・整理にしわ寄せがあるのではないかと思います。しわ寄せ部分を解消できるような計画をよく練っていただきたい。

委 員：ボランティア団体等との活用と話しましたが、私たちもボランティアでお手伝いします。一人で抱え込まないでください。

会 長：心強い意見をいただきましたので頑張ってください。事業計画についてはこれでよろしいでしょうか。ご意見なければ事務局にお返しします。

～ 以上で事業報告についての質疑終了 ～

3. その他

事務局(郷土資料館)より

◎文化財講演会

・倉田会長さんが講演をしますので、お時間のある方はぜひ参加をお願いします。

◎企画展示について

・まだ案の段階ですが、今回は「くらしの中の動物」をテーマに、干支やお札の中に出てくる動物、白井と関係する馬の紹介、道具に動物の名前が入っているものもあるので、子供たちに道具の中にも動物が隠れているんだよという感じで興味を持ってもらえるような企画展を考えています。

・リーフレットを作成中ですので出来上がりましたら、送付させていただきます。

※【意見及び質疑なし】

4. 閉 会